

平成 16 年 6 月 15 日

金融審議会金融分科会第一部会御中

豊商事株式会社  
デリバティブス・IT 担当  
取締役部長  
古井智昭

外国為替証拠金取引に係わる審議内容に対する意見書

外国為替証拠金取引に係わる 5 月 26 日開催の第 17 回第一部会における一部委員の発言内容に疑義を持ちましたので意見を申し述べさせていただきます。

外国為替の価格変動率が他の金融商品と比較してけた違いに大きいことを理由にリスクが非常に高く一般投資家に不向きであるとの見解を述べられた部分であります。

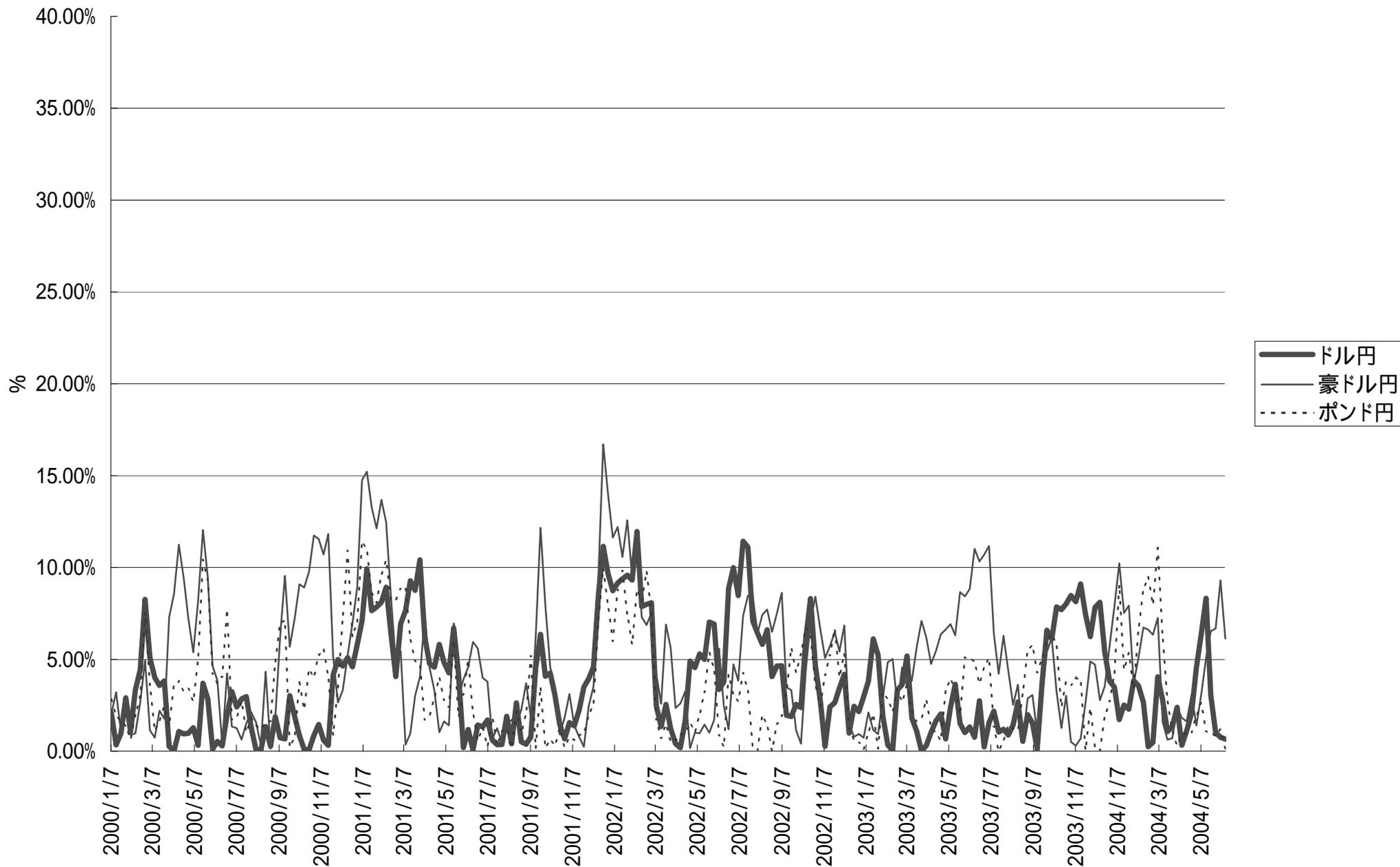
ここに添付致しましたのは、非常に簡便なボラティリティーの計測方法、即ち、一定期間(3ヶ月)の間に元の価格から何パーセント値動きしたかと言う計算に基づき、ドル円、豪ドル円、ポンド円、日経 225、国債、トヨタ株各々を 2000 年初頭よりの推移をグラフ化したものです。

この二つのグラフからお分かり頂けるように外国為替の価格変動率は他の金融商品との比較において決して高いものではなく、反対に比較的到低いものと考えられます。審議会の討議の中で、変動率がことさら取り上げられ、本来糾弾されるべき不法行為(現状の投資家被害の殆どは既に不法行為によるものと理解しています)とリスクの問題が混同されて討議されていることに大きな危惧を持つものです。

なお、金融商品のリスクの計測には多くの考え方がありますが、ボラティリティーはその計測の基本であると同時に、ボラティリティーと言う指標の計測方法、対象とする期間に多くの考え方が存在します。しかし乍、どのような計測方式、期間においても、リスクの金融商品間の比較と言う目的をほぼ達成することが出来ると考えますので、このグラフの添付をさせていただきます。価格データのソースはブルーンバーグ社です。

以上

資産価格変動率の比較(3ヶ月) I



資産価格変動率の比較(3ヶ月) II

